

演題名	職員におけるユニットケアの理解と実践 ～ユニット炊飯始めました～			
施設名	介護老人保健施設しおん	発表者(職種)	伊藤 麻美 (介護福祉士)	
活動の種類	質・安全・能率・CS・モラル・コスト	取り組み種別	問題解決型・課題達成型	
改善しようとした問題 課題	ユニットケアを実践する為に知識不足を改善し、ユニット炊飯を実施する			
改善の指標とその目標値	(指標)①ユニットケアについての筆記問題正解率 ②ユニットケアの実践 (目標値)①スタッフ全員が正解率8割 ②ユニット炊飯の実施			
実施した対策	①ユニットケアについての学習と意見交換 ②ユニット炊飯への取り組み ③筆記テストの実施(目標達成ならず) ④追加対策として勉強会と2回目の筆記テスト実施			
改善指標の対策実施前後の変化	(実施前)ユニットケアについての知識不足、ユニットケアが出来ていない (実施後)スタッフ全員がユニットケアの筆記問題で正解率8割を達成 ユニット炊飯を実施し3割(6人)が自主的に参加している			
チームの名称	たくレンジャー	リーダー名(職種)	野村 常也 (介護士)	
		チームの人数	9 名	
活動状況	平成26年4月～10月		平均会合時間	60 分
	会合回数	12 回	平均会合出席率	60 %

## テーマ選定

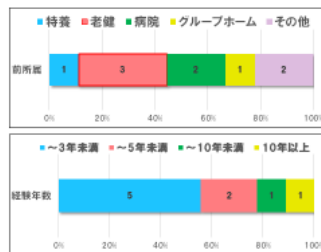
評価項目 テーマ課題	マッチする か	施設理念に マッチする か	ユニット方針に マッチする か	緊急度	重要度	実現度	自分達で 解決できる か	期間内で 解決できる か	評価点	順位
ユニットケアが出来ていない	○	○	○	○	○	○	○	○	39	1
レクリエーションのバリエーションが少ない	○	△	△	○	○	○	○	○	29	2
外出することが少ない	○	△	△	△	○	○	○	○	21	3

評価点	方針		改善要求度			メンバーの能力	
	施設方針に マッチするか	ユニット方針に マッチするか	緊急度	重要度	実現度	自分達で 解決できるか	期間内で 解決できるか
◎ 6点	方針に沿っている	すぐに取り組む必要がある	重要	重要	改善できる	出来る	出来る
○ 3点	一部方針に沿っている	早めに取り組む必要がある	やや重要	重要	一部改善できる	出来そう	出来そう
△ 1点	方針に沿っていない	すぐに取り組む必要はない	重要でない	重要でない	改善は難しい	出来ない	出来ない

## 現状把握

ユニットに在籍している職員の介護経験について  
2ユニット職員9名全員を調査



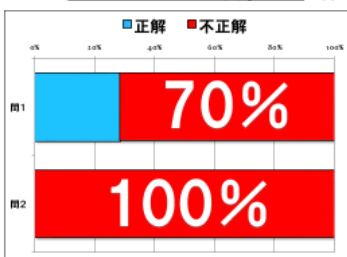
- ・老健の経験者が3人しか居ない (うちユニットケア経験者は1人)
- ・介護の経験に乏しい職員が多い

↓  
ユニットケアについて  
理解できているとはいえない

## 現状把握

問1 ユニットケアとはどのようなものか

問2 ユニットケアについて抜粋される、老人福祉法第三章第33条を知っているか (ユニットケアについて大事なことを答えられるか)



2問とも正解率が低い  
ユニットケアがどういふものか理解  
できていない!

ユニットケアについて大事なことは  
入居前の生活と入居後の生活が  
連続したものとなるよう  
自律的な日常生活を  
営むことを支援すること

## 目標設定

～その1～

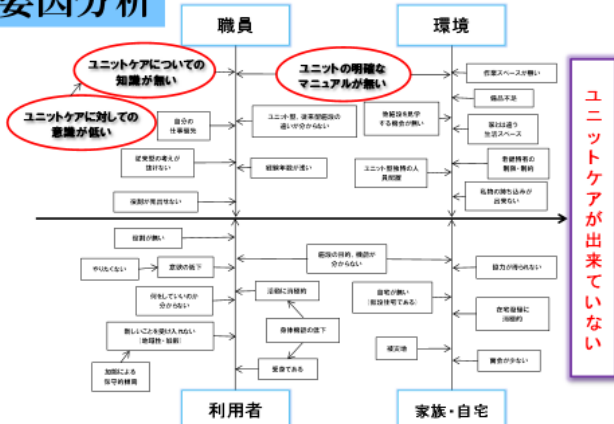
ユニットケアについて学び、  
7月末日筆記テストを実施して

**正解率8割**を  
ユニットスタッフ全員が達成する!

～その2～

ユニットケアの手法を**実践**し、**マニュアル化**  
ご利用者にも**参加**していただく!!

## 要因分析



ユニットケアが出来ていない

### 対策の立案

対策項目	いつ	誰が	何の為に	どこで	何を	どうする
筆記問題を通して知識を備える	6月中	ユニットリーダーが	職員のユニットケアに関する知識向上のため	ユニットで	ユニットケアについてのテストを	作成する
	7月より	リーダー以外のユニットメンバー	ユニットケアに対する知識を備えるため	会議室で	ユニットリーダーが作成したテストを	筆記テストを受ける
ユニット炊飯の実施	5月中	ユニットメンバー全員 (ユニットケア経験者中心)	職員、ご利用者が全員がユニット炊飯を行うために	会議室で	ユニット炊飯のマニュアルを	作成する
	6月より	ご利用者	家庭の雰囲気を感じてもらつたため 入居前の生活と入居後の生活を連続したものとするため	ユニットで	昼食時の米飯・全粥の炊飯	炊飯の実施

### 対策の実施

【ユニット炊飯を行う上での、ユニット・栄養師間取り決め事項】

項目	担当者	実施内容
① 炊飯の準備	ユニットリーダー	炊飯器の清掃、水加減の確認
② 炊飯の実行	ユニットメンバー	米の量、水の量の確認
③ 炊飯後の確認	ユニットリーダー	炊飯完了の確認、炊飯器の清掃

## ユニット炊飯用 マニュアル完成！

### 効果の確認：有形効果1

テスト結果比較グラフ

二回目の筆記テストでは  
**スタッフ全員が**  
8割以上を  
**正解**  
**目標達成！**

さらに、一回目と比較すると  
正解率が全体的にアップ！

### 効果の確認：有形効果2

## 目標達成！

ユニット炊飯のマニュアル  
 炊飯への**利用者**の参加

計6名が参加！  
 炊飯だけでなく  
 配膳にも  
 協力いただきました！

### 効果の確認：無形効果 波及効果

**【無形効果】**

- ・洗米の時間には**ご利用者自ら**声を掛けてくれるようになった
- ・炊飯器からのご飯の香りから、ご利用者にもうすぐ**ご飯であること**を実感していただけるようになった
- ・米の研ぎ方などに関する話が**増え**、ご利用者同士や職員を交えた**会話が**増えた

**【波及効果】**

- ・ユニット炊飯のマニュアルを作成したことで、これを参考に他にも**ユニット炊飯**に取り組む**ユニット**が出てきた
- ・炊飯器などの調理器具をユニット内に揃えたことで、**調理レクリエーション**の幅が増えた
- ・ユニットケアの知識が増えたことで、会議での**建設的な意見**が増えた

### 標準化と管理の定着

	なぜ	何を	いつ	誰が	どこで	どうする
標準化	ユニットケアの理解と実践を	フロア会議	月1回	ユニットスタッフ全員	ユニット内	ユニットで行えるユニットケアについての意見交換する
	行うために	勉強会	年1回	ユニットスタッフ全員	ユニット内	理解できるように指導する
教育		ユニットケアについて	入職時	ユニットリーダー	ユニット内	入職者に指導する
管理		ユニットケアマニュアル	年度末	ユニットリーダー	ユニット内	見直し・追加作成する

### 反省と今後の課題

良かった点	悪かった点
ユニットケアができていないという現実を客観視することが出来た	テーマ選定 テーマを決めるのに時間がかかった
問題を明確にすることが出来た	現状把握 目標設定のユニットケアがどの程度できているかの盛り下げが必要だった
目標を設定することで今後の計画が立てやすくなった	目標設定 目標についての数値化が足りなかった
普段意識していない多くの課題が見つかった	要因分析 分析に時間がかかった
重要かつ実現性の高い対策を立案できた	対策の立案 立案に時間がかかった
追加対策を行ったことで、結果多くの対策を行うことが出来た	対策の実施 一度目の対策で目標を達成できなかった
他にもユニット炊飯を行うユニットが出てきた ご利用者からの好評をいただいた	効果の確認 ADL等の課題から聞かれたご利用者がいた
教育について仕組み化することができた	標準化と管理の定着 マニュアル化するまでに時間がかかった